

国交労組

昇格課題は個人の問題ではない

私たちの要求には賃上げや長時間労働の解消、希望配転等があります。職務を正しく評価させ、それにふさわしい処遇にさせるための昇格改善もそのひとつであり、第二の賃金闘争と位置づけられるものです。

連年の定員削減で職場の状況がきびしくなる一方、国民の行政に対する期待の高まりなどから職務が複雑化し困難性も増えています。しかし、公務職場全体の職責が増しているにもかかわらず、処遇改善は遅々としてすすんでいません。くわえて今年の人事院勧告では、月例給は据え置きとなったほか一時金は引き下げとなり、実質賃下げの状況になっています。賃金改善のためにも、昇格を実現させることが必要です。

昇格の仕組みや、実現のための問題点は何なのかを理解し、職場の個別課題とあわせてとりくみを組合員が一丸となつてすすみましょう。

「昇格」と「級別定数」

「昇格」とは、同一俸給表内の上位の級に格付けを変更することです(似た言葉の「昇給」は、同一級内において上位の号俸に上がること)。昇給すると、昇格前の俸給月額と同等に格付けされるのではなく、さらに上位の号俸に格付けされます。これを「昇格メリット」といい、昇格すれば昇給をしたような効果があります。

昇格は、職務経験や職務評価(人事評価)の結果などをとに判断され、人事評価では、直近または直近の連続した能力評価と業績評価の全体標語がどうだったかが要件とされています。ただし、評価が要件を満たしていても、必ず昇格するとは限りません。その原因は

「級別定数」にあります。級別定数とは、各省庁で行うのは、級別定数は「予算の範囲内で決める」とされているため、12

「級別定数」にありませぬ。昇格のとりくみを秋闘で改定作業が行われるためです(表1は例年ベースのスケジュールを表しています)。

人事院作業		財務省作業		内閣人事局作業	
8月 下	各省庁から要求書提出	各省庁から要求書提出	各省庁からのヒアリング	組織の新設・改廃等各省庁からの要求内容ヒアリング	
9月 中	各省庁からのヒアリング	各省庁からのヒアリング	級別付け総数、人事院と協議		
9月 下	級別付け総数、財務省と協議				
10月 中					
10月 下	人事院査定分財務省へ説明	人事院査定分の説明を受ける			
11月 中	各省庁に査定結果内示				
11月 下	復活折衝				
12月 中	人事院査定分終了	財務省査定分内示(予算内示)・復活折衝			
12月 下	財務省査定分の級別付けの審査	財務省査定分に対するチェック			
1月 中		財務省予算原案完了(予算原表作成)			
1月 下					

表1 級別定数決定のプロセス(国土交通労組作成)

級別定数が原因で昇格において発生している問題が、大きく二つあります。ひとつが職員の年齢構成と合致していないために発生している問題で、いわゆる「世代間格差」の問題です。この問題は、特にかつては40歳代前半で4級に昇格できていたものが、いまでは50歳代にまで遅れているところに顕著に表れています。40代後半に年代の山があるにもかかわらず、定数が措置されていないために昇格できていません。

もうひとつの問題が「機関間格差」です。国の行政組織の業務はそれぞれ組織段階(本省や管区機関、府県単位機関、地方先機関)によって内容、執行体制、管轄範囲などが異なり、その職務の複雑、困難及び職責も異なることから、組織段階別に職務の標準的な尺度となる「級別標準職務表」を定めて差を設け、各官職を評価しています。そのため、係長であつても各組織によって級が異なります。しかし、人事が特に地方機関においては管区中心であるため、4級係長が局中心に発令されているのが実態です。

人事院は、出先機関の職責が複雑・困難化しているという点について否定してはいませんが、行政全体で業務が複雑・困難・高度化しているなか、上位の組織の官職が高度の職責を負っているという組織段階間の相対的な関係は変化していません。上下関係が逆転しているものではありませんが、下部機関ほど定員削減のしわ寄せを受けている実態からすると、上下間の間隔は狭まっているといえ、もつと下部機関に必要な定数を措置すべきです。

また、行(二)職員の場合、定数にぐわえ不補充政策下における部下数要件も昇格の足かせになっているなど、各職種によつても昇格には多くのハードルがあります。

改善させるために

国土交通労組では毎年秋に、昇格要求を実現するため、部門ごとに昇格向上団がとりくまれていきます(今年とりくみは2・3面に掲載)。会議では昇格制度の仕組みの学習、職場の問題点の抽出とその対策を話し合うとともに、当局交渉や人事院交渉にとりくみ、処遇の改善を訴えてきました。一朝一夕に改善されなくても、粘り強く要求を訴えるなかで、少しずつ改善されている部分があることに確信を持ち、とりくんでいくことが必要です。

人事院への交渉とは別に国土交通省当局との交渉では、具体的な職場実態とともに要求項目を掲げること、問題意識を労使で共有していくことも必要です。解決できる課題もあり、工夫をしながらよりよい処遇を運用させることをめざして、引き続き要求を掲げて、各職場段階から交渉に結

先月「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」が公開された。それまで閑散としていた劇場に活気が戻ってきた。新型コロナ禍のもと何かと暗い話題が多い中で幅広い世代に愛される記録的な大ヒットとなり一筋の光明が差したように思えた▼コラボもグッズ販売のみならずアイドルが登場人物に扮したコスプレをSNSで披露するなど各方面で広がった。無限列車は大正時代製造のSLがモデルとされJRのコーポラ列車は指定席券が瞬時に完売した。作品を知らずとも興味をわく▼その一方で作品鑑賞を押しつたりする「キメラ」という言葉も誕生している。主人公の耳飾りのデザインが旭日旗に似ているとして韓国では心無い言葉を浴びせられるファンもいるという。作品の大ヒットの陰でこのよううな風潮は残念でならない▼菅首相は衆院予算委員会ですべて「『全集中の呼吸』で答弁させていたたく」と主人公のセリフを引用した。あるアニメ文化の専門家は同作品で「強者は弱者を守ろうと訴えかけている」と評する。首相にその声は届くのか。何人もが幸せな暮らしができる社会をめざし行動に結集しよう(G)

明日へ
無制限列車編
が公開された。それまで閑散としていた劇場に活気が戻ってきた。新型コロナ禍のもと何かと暗い話題が多い中で幅広い世代に愛される記録的な大ヒットとなり一筋の光明が差したように思えた▼コラボもグッズ販売のみならずアイドルが登場人物に扮したコスプレをSNSで披露するなど各方面で広がった。無限列車は大正時代製造のSLがモデルとされJRのコーポラ列車は指定席券が瞬時に完売した。作品を知らずとも興味をわく▼その一方で作品鑑賞を押しつたりする「キメラ」という言葉も誕生している。主人公の耳飾りのデザインが旭日旗に似ているとして韓国では心無い言葉を浴びせられるファンもいるという。作品の大ヒットの陰でこのよううな風潮は残念でならない▼菅首相は衆院予算委員会ですべて「『全集中の呼吸』で答弁させていたたく」と主人公のセリフを引用した。あるアニメ文化の専門家は同作品で「強者は弱者を守ろうと訴えかけている」と評する。首相にその声は届くのか。何人もが幸せな暮らしができる社会をめざし行動に結集しよう(G)